

院内限定 ～緩和ケアを学ぶ会のご案内～

2009年9月より、地域医療連携室と寄付講座緩和医療が共催して、月一回の定例で、患者さまとご家族さまを対象に緩和ケアについて学ぶ会を実施しております。がんに対する治療が多様化する中で、治療期間が長くなることは必然であり、今では「がんは生活をしながらどう付き合っていくか」という病になっています。緩和ケアの目的も近年大きな変化があり、患者であるご本人、そしてご家族に限らず、国民一人ひとりが緩和ケアの正しい知識を持つことで、がんという病気に対する意識を変えるきっかけになればと期待しております。

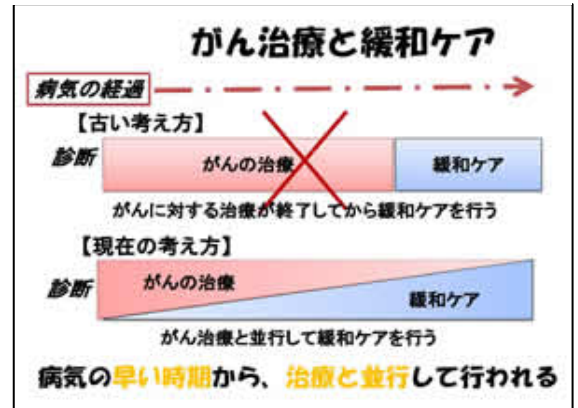
この講話では、連携室の高橋師長から、医大病院で治療を受けながら、自分や家族の生活に合わせてどのような準備が必要になるかという話、また、当病院の緩和ケア認定看護師の田中副師長から、緩和ケアとは何かという話や基本的な薬剤の話など、そして、患者さま・ご家族・がん・緩和ケア相談サロンの岩本ソーシャルワーカーからは情報の探し方や心理サポートについての話をいたします。また、講話の後には個人相談やフォローアップにも対応しております。

今後の日程

11月18日(水)；12月16日(水)
1月20日(水)；2月17日(水)
3月17日(水)

時間はいずれも、午後1時半～2時半、
場所はファミリーマート向かいのカンファレンス
スルームです。お問い合わせ、申込みは、
☎011-633-8010(相談サロン)まで。
お気軽にお問い合わせください。

例えば、こんなことを学びます！



熱心に参加いただきました！（第二回の様子）



緩和ケア、疼痛薬の正しい知識は大切です。

医療用麻薬と緩和ケア

- ◆がんの痛みは仕方がないと我慢する傾向にあること
- ◆麻薬は「中毒になる」「命が縮む」「最期的手段」という誤ったイメージ

- 痛みを我慢していると、痛みに敏感になったり、鎮痛剤が効きにくくなることもある
- 痛みをしっかりすることで、治療に専念でき仕事や趣味を続けることができたりと多くのメリットがある
- 医療用麻薬を使い中毒や依存症、寿命が縮むという心配はない

痛みは我慢せず、自分の言葉で伝えて治療を受ける

講師の田中緩和ケア認定看護師と高橋師長です！

